

市の概況 (令和5年4月1日時点)

人口	127,330人
高齢化率	30.4%
後期被保険者数	19,228人
日常生活圏域数	11圏域

一体的実施前の体制

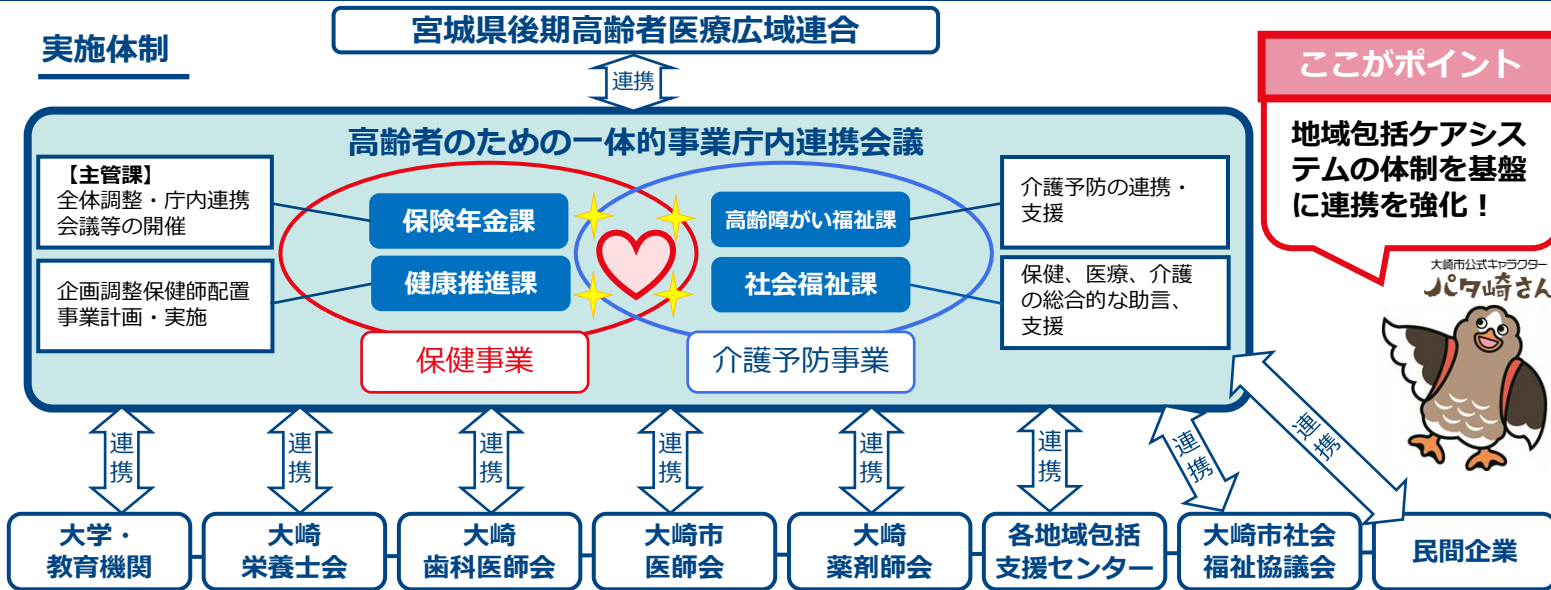
これまで培ってきた地域包括ケアシステムの構築により、以下のような体制が整っていた。

- 医師会との定期的な打ち合わせや会議を開催する頻度が高いため、かかりつけ医からの協力が得られやすい。
- 圏域別の地域ケア会議などへ三師会等の関係機関が参画しているため、三師会等と連携が得られやすい。また、介護や医療の関係機関と情報共有しやすい会議の場があった。
- 週1回の通いの場が110か所以上あり、ポピュレーションアプローチを実施しやすい環境にあった。

関係機関との連携

- 医師会…定期的な打ち合わせ、会議を実施。かかりつけ医と連携した訪問健康相談事業を実施。介入効果をかかりつけ医及び会議での報告により共有。
- 歯科医師会…年2回会議にて情報交換。
- 薬剤師会…定期的に会議、勉強会を実施。薬局におけるフレイル健康相談の実施。
- 地域包括支援センター…健康状態不明者の事業において、訪問前後でカンファレンスを実施。同行訪問を行い、フォローが必要な人や介護に繋がった方がいい人などケースの発掘、継続支援をしている。

実施体制



取組経緯

- 後期高齢者の健康課題を分析し事業を展開していくことで、市の健康課題をより明確にしたい。
- 必要な人に必要なサービスが行き届くような事業整理を推進したい。
- 高齢者の健康づくりをより包括的にとらえ、庁内外連携を密にした取り組みを推進したい。

R3年度（一体的実施の取組1年目）実施圏域3圏域
 ・庁内連携会議（2回）
 ・関係機関との情報共有（その都度）



R4年度（一体的実施の取組2年目）実施圏域4圏域
 ・庁内連携会議（5回）
 ・関係機関との情報共有（その都度）

ハイリスクアプローチ

宮城県で唯一、多剤処方者等への相談・指導に取り組んでおり、大崎薬剤師会と共に作成した大崎市オリジナルの服薬アセスメントシートを活用し、訪問による健康相談や、大崎薬剤師会と一緒に訪問前後のケースカンファレンスを実施している。

ポピュレーションアプローチ

フレイルチェッカーズ（フレイル自己チェック、握力・血圧測定、咬合力チェック、体組成測定等）を活用し、健康状態・フレイル状態の見える化をして、自身の気づき、振り返りを促している。



フレイルチェッカーズでの様子

宮城県大崎市

事業結果と評価概要(令和5年度結果) 【※全11圏域にて実施】

取組		対象者数	支援者数 参加者数	評価指標	状況(評価結果)
ハイリスク アプローチ	多剤処方者等への 相談・指導の取組	20人 (実人数)	20人 (実人数)	<ul style="list-style-type: none"> 連携体制構築のための会議回数 アセスメントシートの作成・共有 訪問件数 薬剤単価の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 連携体制構築のための会議回数 計5回 大崎薬剤師会とアセスメントシート作成・共有 訪問件数14件 ・電話相談6件 薬剤単価の減少 維持
	健康状態不明者対策	87人 (実人数)	87人 (実人数)	<ul style="list-style-type: none"> 連携体制構築のための会議回数 マニュアル共有 訪問件数 必要なサービスにつながった者の割合 	<ul style="list-style-type: none"> 連携体制構築のための会議回数 計15回 マニュアル共有 全包括支援センターと実施 訪問件数78件 電話相談9件 健診受診21件 必要なサービスにつながった者の割合 70%
	生活習慣病等の 重症化予防の取組	74人 (実人数)	50人 (実人数)	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報共有回数 定例会議による進捗管理回数 訪問件数 定期受診継続割合 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報共有回数 計20回 定例会議による進捗管理回数 隔月1回 訪問件数14件 ・文書等による受診勧奨36件 定期受診継続割合 100%
ポピュレーション アプローチ	その他複合的取組 (フレイル状態の把握をし たうえで、健康課題に沿っ た健康教育を実施)	130回	149回 1,762人 (延人数)	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報共有回数 マニュアル共有 実施回数・人数 フレイルの認知度 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との情報共有回数 計38回 マニュアル共有 全11圏域で実施 実施回数・人数 149回 1,762人 フレイルの認知度 維持

今後の展望

- 地域分析をさらなる視点（後期高齢者の質問票等）も加えて継続して実施する。
- 地域特性に合わせ、事業整理も含めた効果的な事業実施体制を構築する。
- ポピュレーションアプローチにおける健康無関心層へのフレイル対策として、効果的なアプローチ体制の構築を検討していく。
- 関係機関と連携を強化・拡大し、高齢者の健康づくり支援や地域の見守り等のさらなる体制整備と質の向上を図る。